



【感染症だより】

～溶連菌感染症について～

溶連菌とは、一般的に A 群β 溶血性連鎖球菌のことを指します。今年都内では上半期にも流行していましたが、9月から再び増加しています。気道から飛沫感染し、2～5 日間の潜伏期の後、咽頭炎、扁桃炎、中耳炎、猩紅熱、副鼻腔炎などを起こします。軽症であれば咽頭痛のみですが、高熱や関節痛、発疹、イチゴ舌、頭痛、嘔気、腹痛なども認められます。学童期の小児によく流行しますが、乳幼児や成人にも感染を起こし、同様の症状がみられます。診断は、迅速簡易検査で咽のぬぐい液を採取して 10 分くらいで判ります。診断されたら必ず抗生剤治療（1 週間から 10 日間）を行い、それと同時に除菌をします。溶連菌が除菌されずに保菌され続けると、様々な合併症を引き起こします。例えば、慢性腎炎や、リウマチ熱などがみられます。慢性腎炎では、検尿で血尿や蛋白尿が出て、徐々に腎機能が低下していくことがあります。また、リウマチ熱で心臓の弁に炎症が起こると、心臓弁膜症の後遺症となります。このような合併症を防ぐために、処方された抗生剤は指示された通りにしっかりと内服し除菌しましょう。

溶連菌に何度も罹る人がいます。その場合、家族内に無症状の保菌者がいて、ピンポン感染を繰り返していることがあります。もし何度も繰り返す場合には、ご家族も検査をしてみて、陽性であれば除菌をするとよいでしょう。

溶連菌感染症は伝染病に指定されており、抗生剤内服後 24-48 時間は出席停止となっていますので、注意しましょう。

表：9月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	手足口病	69
2	RS ウイルス	57
3	胃腸炎	46
4	溶連菌	42
5	ヘルパンギーナ	17
6	突発性発疹	4
7	インフルエンザ A	3
8	アデノウイルス	2

★病児保育室あんずからのお知らせ★

入室予約は前日からとなっておりますが、未受診の方はお受け出来ません。入室された方どうしの病気の感染を防ぐためですので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

文責： 清水マリ子

